

## 異年齢の交流活動や地域との連携を図った取組

ねがい

### 〈 目的 〉

「よく考え、自分で正しく判断し、行動できる児童生徒」「よさを認め合い、思いやりのある児童生徒」を育てるため、小・中学校で継続した指導・支援ができるようにします。

### 〈 内容 〉

つながり

#### ● ジョイントレッシン（中学校での学習体験）

小学校6年生が入学前に中学校に出向いて、中学校の生活等を体験する活動を実施しました。「中学校生活で不安に思っていること等」の事前アンケートをとり、その解消に向けた説明を児童・保護者にするとともに、体験授業と部活動見学を行いました。授業を体験することにより、他校の児童や中学校教員と触れ合い、入学時の心理的不安が軽減されました。また、部活動の様子が分かり、意欲を持って入学しようとする様子が見られました。



【理科実験にチャレンジしている様子】

#### ● 異学年による縦割り班活動（児童会活動）

- ・全校で12班を作り、話し合いによってそれぞれのグループで役割を決め、朝の活動時間を利用し、月2回の活動を実践しています。（ドッジボール、おにごっこ、カルタ等）【白鳥小】
- ・全校で18班を作り、毎週水曜日の2、3校時の間の20分間に活動しています。（ドッジボール、だるまさんが転んだ、大縄跳び、ハンカチ落とし等）【本町小】
- ・全校で4班を作り、月・水・金の昼休み「いきいきタイム」に体育的活動をしています。（全員リレー、大縄跳び、清掃活動等）【福栄小】



【めあてを全員で話し合っている様子】

#### ● 地域清掃活動

- ・ボランティア活動として、学校に隣接する松西海岸の清掃活動を実施しました。異学年での活動を行いました。【本町小】
- ・白鳥園の方々と協力し、第1学年全員で海岸清掃を行いました。【白鳥中】



【海岸清掃の様子】

### 〈 成果 〉

高まり

- ・異年齢による交流活動等により、自尊感情が少しずつであるが高まり、相手に対して余裕を持って接しようとする児童が見られるようになりました。また、自分の考えを他の人の前ではっきり言うことができたり、清掃を一生懸命したりする姿が増えました。
- ・ジョイントレッシンなど、小中学生や教員等との直接的な触れ合いの大切さを共有できました。